

(案)

平成31年3月19日
第9回市民活動推進委員会
資料4

協働アイデア提案コンテストのあり方についての答申の案

協働アイデア提案コンテストのあり方や継続に関して審議したので結果を答申する。

協働アイデア提案コンテストは、市と市民活動団体が協働して実施する「協働推進事業」のアイデアを市民が気軽に提案できる仕組みであり、協働への市民の関心を高め、協働の裾野が広がることを意図してつくられた。提案内容は広く市民に公開し、市や市民活動団体等がそこからヒントを得ながら協働推進事業に取り組むことが期待されている。

しかし、平成22年度の実施以来、113件の提案があったものの、提案の中から協働推進事業につながった事例は、23年度の1件のみに留まっている。提案されるアイデアは、行政に対する要望や生活の利便に関するものが多く、「協働」手法による公共事業の実施を意識した提案は少ないという状況が続いてきた。様々な対応策を試みたが、この状況は改善されないまま9年間が経過した。

複雑多様化する社会環境や、時代とともに変化する市民ニーズを捉えて、課題解決に向けた政策を立案・実施する際には、市民が主体的に参加する協働という手法は必要不可欠である。とりわけ、財政制約が強まるなかで費用対効果の高い行政経営が求められる地方自治体において、市民との協働の重要性は一層高くなっていくと考えられる。

このような状況を踏まえ、当委員会としては、協働アイデア提案コンテストを一旦終了させ、近年着実に進めてきた市民活動サポートセンターとの連携強化等、政策資源の有効活用をとおして協働推進事業の一層の拡大・充実を図ることを求めたい。また、市が市民参加の一環として運用している「政策提案」や「わたしの提案」を活性化させ、市民の提案を積極的に募るとともに、協働推進事業のアイデアとして活用する方策の検討をお願いしたい。

当委員会としては、引き続き、市民活動の推進に効果的な取組に関し審議を重ねていく。